

推薦人の責任について (2017-12-28)

私が、医学部長やある大学の学長をやっていたころ、若い研究者がやってきて、これこれの研究助成に応募したいので推薦と印鑑をくれとよく言われた。

この場合、1) 締切前ぎりぎりに言ってくる場合と、2) 締切のかなり前に、助成申請書を読んで欲しい。悪いところは直すので、推薦して欲しいと言ってくる場合があった。

- 1) の場合は、急なことなので、申請者に「事務で公式印を押してもらえ」と簡単に済ませていた。読んで訂正する時間はない。また、申請者は私が読んでも分かる筈がないぐらいに考えているのであろう。この場合は、無責任な推薦になり、ときどきこれで良いのかと心配もあった。
- 2) の場合は、1) の場合に比べ、少し採択率がよかった印象がある。

研究助成申請書のような場合でも、若い研究者に科学的な良い文書を書かせ、文献の正確な引用の仕方などを教えるよい機会であろう。推薦人である以上は責任があると思うが、一般的には無責任な推薦人が多いようである。

先日、当財団に応募のあったある助成申請書の推薦人の署名に、「主人教授、〇〇」とあった。私は一瞬戸惑ったが、「主任教授、〇〇」と理解した。当然のことであるが、この無責任な「まんが的」な申請の助成は却下した。

いま、多くの企業の不正、誤魔化しが蔓延しているが、大学でも無責任体質があるのではないかと思う。推薦人は飾りではない。責任を持って欲しいと期待している。